第７０期生に聞く「幹部候補生学校入校所感」



陸上自衛隊幹部候補生学校
第４候補生隊第６区隊
一般幹部候補生　陸曹長　櫛引　泰知

同窓生の皆様、並びに日々厳しい任務に就かれている現役隊員の皆様に心より敬意と感謝申し上げます。防衛大学校本科７０期卒業、陸上自衛隊幹部候補生学校第１０７期一般幹部候補生ＢＵ課程に入校中の櫛引候補生です。

長いようで短かった防衛大学校での４年間を終え、気持ち新たに陸上自衛隊幹部候補生学校に入校してから約半年が経ちました。現在に至るまでも、同期と共に笑いあい、時には涙を流したあの防衛大学校での日々はまるで昨日のことのように思い出されます。この度、光栄にも小原台だよりに寄稿する機会を頂いたので、この場をお借りして来年以降に入校する後輩学生の不安を少しでも払拭できるよう、私が幹部候補生学校に入校してからの約半年間で印象深かったこと、感じたことを２点述べさせていただきます。

最初に、幹部候補生学校に入校してから約半年、訓練や学校生活の中で今まで以上に「同期」の存在が大きくなったように感じます。幹部候補生学校は約10ヵ月間の課程という特性から、上級生も下級生もいません。そのような環境での生活を通して誰よりも自分のことをよく見ているのは同期であるということに気がつきました。防衛大学校では、上級生や下級生との学年による縦の繋がりの中で生活をしていました。しかし、幹部候補生学校では区隊員をはじめとした周りの全員が同期です。防衛大学校卒のみならず、一般大学卒や陸曹陸士の同期は、入隊した背景や経験の違いはあっても寝食を共にする関係であるからこそ相手の良いところ、時には悪いところもよく見えてきます。こうした横の繋がりの中では自身の姿勢や態度の一つひとつが、同期の自分に対する態度や関わり方に現れます。ある意味では区隊長をはじめとした指導部よりも厳しく見られているといえるでしょう。

入校したばかりの頃は、周りの同期からどのように見られているのか不安になってしまうこともありましたが、現在では、同期は自分を映す鏡であると前向きにとらえることでこれまでよりも自分の強みと弱みについて深く理解することができています。これから幹部候補生学校に入校する後輩の学生には、同期しかいないこの横の繋がりの中での誤魔化しの利かない環境を恐れることなく、自分をまた一歩成長させるチャンスだと思って臨んでほしいと思います。

次に、一般の大学を卒業してきた同期たちの吸収の速さ、仕事としての意識の高さは幹部候補生学校に入校してからとても印象的でした。幹部候補生学校に入校する前は一般大卒の同期たちはどんな人たちなのだろうという希望と共に少しの不安もありました。また、入校当初は課目や訓練などにおいて一般大卒の候補生に合わせるということに対して疑問を感じてしまうことがありました。しかし、そのような不安も疑問も１か月もすれば跡形もなく無くなる程に彼らの吸収力には目を見張るものがありました。特に印象的だったのは訓練において、回数を重ねるごとに目に見えて基本動作や号令が上達していったことです。ここで私は防衛大学校を卒業する前の訓話において当時防衛大学校の副校長をされていた藤岡陸将がおっしゃっていた「一般大学を卒業して幹部候補生学校に来る候補生たちは覚悟が違う」言葉の通りであったと強く感じました。経験も知識もほとんどない状態から急速に力をつけていく彼らの姿は防衛大学校出身者としての「慣れ」を打ち砕き、幹部候補生としての覚悟と自覚を改めて認識させてくれました。

最後に、これから幹部候補生学校に入校する防衛大学校の後輩の皆さんに伝えたいことは何も恐れないでほしいということです。仲の良い同期と離れてしまうこと、より実務的で厳しい訓練や課目など様々な不安があると思います。しかし、幹部候補生学校には信頼し、尊敬できる区隊長をはじめとする指導部、そして自分の内面を見つめなおさせ、新たな刺激を与えてくれる同期がいます。

何も恐れることはありません、ただ慢心せず日常起居でも学科でも体力でも今できることを続けてください。防衛大学校も幹部候補生学校も基礎の連続です。しかしここでどれだけ手を抜かずに続けることができるかどうかがこれからの３０数年を左右するとこの半年間で強く実感しました。だからこそ、学生舎運営や各種競技会など防衛大学校でしかできない経験を楽しみながらも一人の自衛隊員として、また、幹部自衛官になる者としての基礎を固めて、防衛大学校出身者としての自信をもって幹部候補生学校に入校してもらいたいと思います。

幹部候補生学校での約10ヵ月もすでに半分が経過し、いよいよ部隊での勤務が目前に迫っているということを感じます。残りの期間においても慢心することなく努力を続け、諸先輩方に追いつき、国民の皆様の期待にこたえられるような幹部自衛官を目指してまいります。

末筆ではございますが、同窓生の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。そして、防衛大学校の後輩の皆さんと再び部隊で会えることを楽しみにしています。

２０２６年8月５日記